

(別紙)

令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 長野市

【基本情報】

フリガナ	シャカイアフクシホウジンガノコロニー
法人名	社会福祉法人ながのコロニー
フリガナ	ハートフルゴミョウ
事業所名	ハートフル五明
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
13.8 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: 移乗介護 排泄支援 入浴支援
 移動支援 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) 移乗サポートロボット ハグ 1台

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	2 人	3,030 件	36,360 件	10 分	12,120 人時間	3,030 時間
	2 排泄介助・支援	2 人	1,410 件	16,920 件	15 分	8,460 人時間	2,115 時間
	3 生活自立支援(※1)	1 人	660 件	7,920 件	10 分	1,320 人時間	1,320 時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	1 人	240 件	2,880 件	15 分	720 人時間	720 時間
	5 その他の直接介護	2 人	660 件	7,920 件	30 分	7,920 人時間	1,980 時間
間接業務	6 巡回・移動	1 人	1,980 件	23,760 件	30 分	11,880 人時間	11,880 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	1 人	1,320 件	15,840 件	30 分	7,920 人時間	7,920 時間
	8 見守り機器の使用・確認	1 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	0 時間
	9 その他の間接業務	1 人	0 件	0 件	0 分	0 人時間	0 時間
			9,300 件	111,600 件	140 分	50,340 人時間	28,965 時間

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

令和5年度4月～12月の実績(利用者22名)から
 ①各項目ごとに利用者個々の1日に発生する介護件数を算出
 ②算出した数の合計数(利用者全員分)×30日

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

令和5年度4月～12月の実績から
 支援員に聴き取りした介護に係る処理時間の平均時間

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	2人	2,760件	33,120件	10分	11,040人時間	2,760時間
	2 排泄介助・支援	2人	1,290件	15,480件	15分	7,740人時間	1,935時間
	3 生活自立支援(※1)	1人	630件	7,560件	10分	1,260人時間	1,260時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	1人	210件	2,520件	15分	630人時間	630時間
	5 その他の直接介護	2人	630件	7,560件	30分	7,560人時間	1,890時間
間接業務	6 巡回・移動	1人	1,890件	22,680件	30分	11,340人時間	11,340時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	1人	1,260件	15,120件	30分	7,560人時間	7,560時間
	8 見守り機器の使用・確認	1人	0件	0件	0分	0人時間	0時間
	9 その他の間接業務	1人	0件	0件	0分	0人時間	0時間
			8,670件	104,040件	140分	47,130人時間	27,375時間

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

令和5年度1月～3月の実績(利用者21名)から
①各項目ごとに利用者個々の1日に発生する介護件数を算出
②算出した数の合計数(利用者全員分)×30日

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

令和5年度1月～3月の実績から
支援員に聴き取りした介護に係る処理時間の平均時間

年間業務時間数想定削減率(%)

6.4%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

- 1 ケアの質の向上。
- 2 職員の精神的・肉体的負担軽減。
- 3 業務の効率化。
- 4 ヒヤリハット・介護事故の防止。

(5)今後の課題

- 1 介護時の事故(利用者に対して擦り傷や打撲等のけがをさせてしまう)をなくすこと
- 2 労働災害(腰痛等)を減少させること
- 3 人材定着と育成・確保
- 4 介護業務の効率化を図ること

(6)気づき等について

ロボット機器の導入により、支援員と利用者の満足度向上とケアの質の向上の効果はあった。支援員の精神的・肉体的負担の軽減により労災事故が減少し、人材が定着する職場づくりができた。利用者にとっては、移乗介護時の事故(擦り傷や打撲等のけがをすること)がなくなり、安心して過ごすことができる施設づくりができた。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減 **無**

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

縮減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

移乗介助時(車いす⇄ベッド、車いす⇄トイレ等)に職員が行っていた介護動作を「ハグ」が代わりに行っている。「ハグ」を動作させるときの準備が簡単で、誰にでも操作ができ、使いこなすことができている。利用者が安心して体を預けることができることにより、体力的にも心理的にも職員の負担の軽減になっている。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。

自然な立ち上がりの速さでサポート動作をするため、利用者にとって安心して残存脚力を活用しての移乗が可能となった。体を安心して預けることができる為、移乗の際の利用者の安心感にもつながっている。